

巻頭言

『技術開発・継承の弛まぬ努力とチャレンジ』

取締役 常務執行役員 建築本部長

寒川 勝彦

2025年、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、大阪・関西万博が開催されています。AIや再生可能エネルギー、バイオテクノロジー等の最先端技術が紹介され、未来の技術への期待が膨らみました。

近年、私たちを取り巻く社会は急速に変化しています。建設業における課題や期待も、気候変動への対応や大規模災害への備え、カーボンニュートラルの実現、さらにはデジタル技術の急速な進展など、日々多様化・高度化しています。こうした時代の要請に応えるためには、確かな現場力と先進的な技術開発、優れた施工技術が不可欠であると、強く認識しています。

当社は、これらの社会的課題を背景に、安全・安心・快適な構造物・建築物の実現に寄与すべく、技術開発、施工技術の継承、設計ノウハウの伝承等に継続的に取り組んでいます。本報告書は、そうした1年間の取り組みの成果を取りまとめ、社内外の技術者・関係者に共有することで、技術のさらなる研鑽と知見の蓄積を目指しています。今年度は、脱炭素社会の実現に向けた環境配慮型コンクリート材料の開発状況、土木・建築の最新の施

工技術、グループ会社が取り組む技術、現場でのデジタル技術の試行等、31 編もの多岐にわたる成果が報告がされています。これらは、現場の知恵と研究者の探究心、そして何より技術者一人ひとりの“弛まぬ努力とチャレンジ”によって実現されているものであり、心より敬意を表します。

また、今年度から DX 推進室を発足し、将来の新たな働き方を創るため、デジタル技術への積極的な取り組みを推進していくスタートの年となりました。来年度以降は、省エネルギー技術の報告、AI や BIM/CIM などのデジタル技術活用による作業効率化等の報告が多くなることも期待したいと思います。

今回第 23 号の発刊により、第 1 号から 700 編近い技術の報告が蓄積されたことになります。これらは当社が培ってきた技術の財産であり、改めて当社グループが土木・建築において、どのような技術を有する企業であるかを認識することができます。今後も私たちは、持続可能で人々の暮らしに寄り添う構造物・建築物の実現に向けて、技術の力を信じ、チャレンジを続けて行きたいと思います。

最後に、本報告書の作成に携わったすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

本報告書が、皆様の技術的検討や課題解決の一助となれば幸いです。

2025 年 8 月